

シグマ研究委員会核データ専門部会 核データ評価ワーキンググループ会合議事録

1. 日時：昭和47年5月18日(木) 13:00~18:30
2. 場所：原研本部第2会議室
3. 出席者：(敬称略)

西村，五十嵐，浅見(明)，中川(原研)，中嶋(法大)，神田(九大)，村田，川台(NAIG)，八谷(三井造船)，山越(船舶技研)，稲垣(東電)，松延(住友)

4. 議事

4-1 重い核の核データ・レビュー作成作業経過報告

昨年12月23日に原研で開かれた核データ評価ワーキンググループ担当者会合に於て，昨年8月迄に実施して来た重い核(^{235}U ， ^{238}U ， ^{239}Pu ， ^{240}Pu ， ^{241}Pu)のスムースパート(1 keV~15 MeV)の核データ収集に関する作業結果は，旧重い核グループの担当者が夫々作業結果をまとめて各核種毎にReviewを作成する事になった旨松延委員より報告があり，又，この申し合わせに基づいて2月8~10日，及び3月21~23日の2回に亘って原研で行なったReview作成のための集中作業の経過に就て，川台委員及び松延委員より報告があった。

4-2 重い核スムースパートの核データ評価作業経過報告

現在進行中の重い核(^{235}U ， ^{238}U ， ^{239}Pu ， ^{240}Pu)のスムースパートの核データ評価作業の進捗状況に就て夫々担当委員より報告があった。

特に作業が進んでいる ^{238}U に関して，神田委員より $^{238}\text{U}(n, f)$ 及び $^{238}\text{U}(n, \gamma)$ のデータの現状に就て説明があり，又，報告のまとめ方に就ても提出資料に基づいて，報告書構成の方針や個々の文献の記録内容に対するコメントが出された。

上記報告に対して多数の質疑応答及び討議が交わされた。

尚、今回の評価作業のタイムスケジュールは来年3月末を目標として進める事になった。

4-3 重い核の共鳴領域の核データ収集作業経過報告

重い核4核種の共鳴領域の核データ収集作業の進捗状況に就て浅見委員より報告があった。同報告によれば、現在のところ²³⁸Uのデータ収集が一番進んでおり、70年Helsinki会議のデータ迄収集したとの事であり、又全体としてデータ収集は今年度一杯はかかる見通しであり、従って、共鳴領域の評価作業は来年度から着手する予定との事である。

4-4 共鳴パラメータ処理コードの作成

4-3の作業と並行して進めている共鳴パラメータ処理コードの作成作業に関して中川委員より下記の報告があった。

共鳴パラメータから断面積を計算するΣ-2コードの計算時間が問題になっていたが、これはDoppler broadeningの計算に時間がかかるためであり、これをやらない限り計算時間は短い。又、断面積の平均値を作成するSLAVE-3コードに関しては、Σ-2コードとのつながりがうまく出来ていないが、これは今後サブグループで詰めて行く予定である。

4-5 軽、中重核関係作業

3月初旬にIBMデータセンターに於て実施した⁵⁶Feの弾性散乱断面積の計算結果、及び実験データとの比較に就て山越委員より報告があった。

又、Feの核データに就ても範囲を拡大して収集作業を実施中であり、

✓ 且つ全断面積計算コードを作成中との報告があった。

4-6 計算費の件

五十嵐部会長より本年度の当グループの計算費は100万円となっているので、各サブグループ毎に使用予定額を決めて、6月10日頃迄に全体の計算費使用予定を提出して欲しいとの要請があった。

4-7 その他

i) 西村委員よりENDF/B-IIIが核データ研究室に入ったので、利用希

望者は、核データ研究室宛に申し込んでもらいたいとのアナウンスがあった。

ii) 西村委員より7月中旬に開かれる INDC の Subcommittee に於て、核データの discrepancy の現状に関連して日本での核データ収集・評価作業の活動状況を発表したいので、6月中旬位迄になるべく資料及びコメントを提出して欲しいとの要請があった。

5. 配布資料

i) ^{238}U データ評価報告のまとめ方 (予定)

神田委員

ii) Shape Elastic Scattering (^{56}Fe)

山越委員